

『一生懸命』幻の新座市議会報告第133弾!



たかむらともや

2016年4月30日発行

3 28年度予算に反対!

3月議会は「予算の議会」と呼ばれています。今回の28年度一般会計予算に対して、高邑朋矢と木村俊彦(市民と語る会)は反対しました。

反対理由は実に簡単です。経常収支比率が95%というギリギリの財政状態の中で、新庁舎の建設をすすめ、新座駅北口の区画整理事業、大和田・3丁目の区画整理事業といった大型事業を同時並行で進めていこうという予算だからです。

今「#保育園落ちた」が話題になっていますが、待機児童の解消は真っ先に解決しなくてはいけない問題です。しかし、今回の予算には、保育園の新設が全く含まれていません。

高すぎる国保税に苦しむ人が多いのに、「財政難だから」という理由で、国保への繰り出し金も減らす予算になっています。

先生達が新座市に異動希望を出さないのは小中学校の先生達から駐車料金を取ることなのに、今年度の予算も700万以上先生達から徴収する予算になっています。(県内で数市だけです)

それでいて、市長・議長・教育長の公用車は1台分の予算を減らしただけ。自分たちの車を自分で運転すれば済むことなのに、そこには年間1000万以上の血税を使ってしまおうというのですから、賛成などできる筈がありません。

石神小学校の大規模改修も「区画整理事業」を最優先し、延期してしまいました。ところが、その予算に反対したのはたったの8人でした。反対したのは共産党6人と市民と語る会2人で、残りの16人は全員(政和会7、公明党7、大阪維新、刷新の会)今回の市長提出議案に対して100%賛成したのです。待機児童をなくす公約はなんだったの?

賛成討論で「広報の全戸配布」が多かったのには笑いました。僕が主張していた時には、反対していた人たちが、「広報の全戸配布に踏み切ったことが素晴らしい」と市長を持ちあげましたのです。

「全戸配布」を何度も主張して、散々、野次られた僕としては不思議な気持ちになりました。 3



3月20日(日)の川掃除の写真です。4月の川掃除は24日(日)の予定です。川掃除の後の反省会だけの参加もOKです(笑) たかやん 3

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。
1954年(昭和29年)2月、東京青山生まれ。新宿区立西戸山中学校、都立石神井高校卒。北海道大学3年生の時に、突然教師を目指し、北大卒業直後の4月、

23歳で五中1期生の3年4組を担当する。「一生懸命」は20年間書き続けた学級通信の名前。

99年新堀に「たかやん塾」をつくり、子ども達と再び歩きはじめる。00年落選、04年初当選。

大好きなものは「テニス」と「子どもたちの笑顔」「月に一度の黒目川の川掃除」「駅立ち」

大嫌いなものは「安倍晋三と自民党」「弱い者いじめをする奴ら」「煙草を平気で道路や川に捨てる人間たち」「煙草の煙」「集団的自衛権」「TPP」「消費税」「改正派遣法」「マイナンバー」「欲に塗れたグローバリストと政治家たち」「議会で野次を飛ばし、居眠りする議員たち」
身長175センチ、70キロ、体脂肪率13.4%

写真は六中時代のテニスコートで…。 3

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 罨

昨日、TPP承認案と関連法案が衆議院で審議に入りました。TPPも農協改革も多くの規制緩和もグローバルリスト達からの要求です。

アメリカに「全農グレイン」という全国農業協同組合の子会社があります。日本の畜産農家や消費者の為に厳しい安全基準を作り、日本への遺伝子組み換え作物や危険な農薬を使った作物が輸入されることを防いでいる会社です。

穀物メジャーにしてみれば、遺伝子組み換え作物を日本に大量に輸出したい訳ですし、農薬会社にしたって、ポストハーベストをガンガン使えるようになって欲しい訳です。そこで、出て来たのが農協を株式会社化してしまおうという発想です。農協を株式会社にしてしまえば外資が買収することも可能です。

全農グレインを自由に出来れば、遺伝子組み換え作物だろうが、ポストハーベストだろうが自由に日本に輸出できます。そしてTPPで関税を無くしてしまえば、ヨーロッパに比べて、今でも保護されていない日本の農家は壊滅的な打撃を受けます。

国民の食の安全の為に国が厳しい輸入規制を作れば、ISD条項で訴えられ、国がメジャーに途方もない賠償金を取られます。

それならばとTPPから離脱しようとしても、ラチェット条項があって、後戻りができない仕組みになっています。今、グローバルリスト達からとんでもない”罨”が仕掛けられているのです。それがTPPと農協改革です。関税自主権がないということは、国権がないということです。イギリスが産業革命に成功したのは、インドからの綿製品の輸入を完全に規制して、国内産業を育ててから、大量の綿製品をインドに輸出したからです。自国の産業を保護するのは、国として当たり前のことなのです。今回のTPPの正文には日本語訳がありません。日本の外務省がそれを求めなかったからです。外国語でよく意味の分からない契約書にサインすることの危険性を自民党の国会議員達は理解できているのでしょうか。

アベノミクスで非正規雇用が100万人以上増え、消費増税で景気が冷え込んで、実質賃金も減少しています。その上、グローバルリストの要求でTPPと農協改革で日本の”食の安全保障”まで危機に陥ってしまったら、日本は大変なことになってしまいます。

③ 僕の先生2

僕が五中に赴任したのは昭和52年の春のことでした。新設校でしたので、新3年生と2年生は新座中と三中の子ども達が半々でした。僕は3年生に配属されました。(1年生じゃないの。マジかい!?)

最初の学年会議で先輩達は3年生の担任になることを嫌がりました。僕は校長室に呼ばれました。「お前、担任をやれ!」「はい?」「お前ならできる!」「はあ?」中村校長の一言で、僕は3年の担任をすることになりました。新任で3年生の担任は埼玉県で一人、いや全国でたった一人でした。しかも、理科部会で「3年生と2年生の2学年を受け持ってくれ」と先輩達に言われて「はあ?」それも無理な話でした。校内暴力が吹き荒れていた時代でした。

3年生だけではなく、元気な2年生にも体育館に呼び出されて、闘いました。それでも僕が何とかもったのは、河合先生の考え方が基本にあったからだと思います。どんな子達にも寄り添う...という基本です。僕は3年4組の子ども達といつも一緒にいました。

一緒に走り、一緒に遊んで、一緒に勉強をして、いつも一緒にいました。河合先生のように格好いい先生にはなれなかったけど、先生の考え方は受け継いだ積りです。広島の中学校での悲惨な進路指導、生徒指導を見て思うのです。その学年に一人でも、河合先生のように子ども達と寄り添う先生がいたら...彼の未来は輝いていた筈です。僕や純のように、高校へ行って、大学に行って、青春を謳歌していた筈です。学校の指導によって子ども達が命を失う度に、僕は河合先生のことを思い出すのです。



僕たちの中学校の卒業式の日々の河合先生です。今の僕より遥かに若いのですが、中学生の僕らにとって、神様のような存在でした。

